

令和2年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きに自信をもって取り組める子は全体の2割程度である。 物語文の登場人物の気持ちを読み取ったり、内容を読み取ることは9割の児童が90%程度の正答率をとれている。 文の主語述語・修飾語の文節の理解が低い。 読書は熱心に取り組んでいるが、読む本が偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2週間に1回程度、定期的に漢字の小テストを行い、知識の定着を図る。 文章を読み取る際に、主語や修飾語がどの言葉にかかっているのか確認し、理解を深める。 図書では、図書支援員の方と連携し、多くの書籍の楽しさを知ってもらえるよう読み聞かせやブックトークを実施する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料の中から必要な情報を見付けることが苦手である。 学年全体の約半数の児童がグラフの読み取りが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や他教科の既習事項などを関連させた振り返りや単元の導入場面を設定する。 授業の中で積極的にグラフを読み取る機会をつくり、グラフを読み取る3つの視点を段階的に指導していく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 小数の四則計算の理解が低い。また、小数のわり算においては、あまりの小数点の位置の誤りが多い。計算は正確にできるが、小数点の位置を打ち間違える児童が3割程度いる。大きな数においても、位取りの理解が低かった。 問題文の読み取りが十分でない為、数式や表と繋げて思考することが苦手な児童が多い。 複雑な図形の面積問題で図形を多面的に捉えられず誤答が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習で取り組んでいるベーシックドリルなどで、小数の四則計算が全てカバーできる小数のわり算を中心に反復練習する。 文章から題意を捉え数式化する反復練習ができるように、文章問題に数多く取り組ませる。 補助線の引き方や不明な長さの求め方を繰り返し練習し、苦手意識を払拭する。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 2事象の比較から分かる違いに気付くことはできる。 条件を制御した実験方法を考える部分は教員の支援が必要である。 実験結果から考察し、自分の言葉でまとめられる児童は約1割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の前に必ず復習することで理解の定着を図る。 実験計画を考える際に、どの条件を、どのように変えるか細かく確認しながら進めるようにする。 話し合い活動やその時の大切なキーワードを明確にして、考察が書けるよう支援する。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の手段がインターネットに頼りがちになる。 調べる内容が調べられたら、そこで満足してしまい、次の活動や発想の広がりにつながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 公立図書館や図書支援員とも連携を図り、情報収集に必要な資料を事前に集め、児童に提供できるようにする。 地域へのインタビューやアンケートなど、様々な方法で調べさせる。 情報交換の場を意図的に取り入れ、探求活動が深まるよう支援する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自然で無理のない歌い方はできているが、小さく響きのない歌声になってしまったため、思いや意図に合った表現をすることが苦手な児童が半数程度いる。 前学年の習得が不十分であり、リコーダーの運指や音色、響きに気を付けて演奏する技能が不十分な児童が3割程度いる。 音楽を形作っている要素などへの理解が不十分な児童が6割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 息をたくさん吸って歌うことや、口を大きく開いて発声することなどの基礎的な発声方法を重点的に指導し、歌声が響くようにする。 運指表付きの楽譜を用意し、児童が運指を自分で確かめながら演奏活動に取り組めるようにする。 新曲に取り組む際に、音符、休符、記号や用語について繰り返し指導する。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 工作であると感じがあるが、絵画になると思い通りの表現にならないと感じる児童がいるため4割程度の児童が苦手意識をもっている。 前学年までの材料や用具などについての経験や技能を、総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせる活動が苦手な児童が3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具象的な絵画だけでなく抽象的なものなど、さまざまな方法で描く題材を設定し、イメージマップでイメージを広げることで意欲的に制作に取り組めるようにする。 表現に適した方法などの組合せでは、一つ一つの表現の効果について振り返り、確認して制作に取り組むことで、題材や課題に合った表現ができるようにする。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ミシン縫いや裁縫道具の扱いなどにおいて、実生活での経験が乏しく、学年全体の約20%の児童は一人では難しく、支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことを児童が家庭で実践できるように、保護者と連携して還元できる機会をつくる。 また、ワークシートを準備して、家庭での実践を評価できるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 反復横跳びや立ち幅跳びなど、動きの経験が少ない種目の数値が都平均より5ポイント程度低い。(昨年度の体力テストの結果より) 自分の課題を見つけて改善点を見付けることができるが、実践に結び付けることが難しい。 運動の得意不得意の二極化が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題が見つかった時に、改善点を丁寧に見出しながらコツを分かりやすく伝えるようにする。 技能のポイントを掲示したり、ワークシートを活用したりして、学び合いがしやすい環境を整える。 コーディネーショントレーニングを取り入れ、様々な運動を経験させる。 	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> リスニングは得意な児童が多いが、発音することを恥ずかしがり、声小さいことがある。 スペルやアルファベットの書き間違いが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム等を通じて外国語の楽しさに触れ、自然と声が出るように授業をしていく。 4線が書かれたワークシートや教科書を活用して、正しい字形を正しく書く時間を1単元で1時間取り入れる。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや考えたことを全体で発表することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもたせてから、少人数での意見交流を入れることで考えを発表しやすくする機会を設ける。 ワークシートを毎時間使用することで振り返る時間をとる。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。